

SDGs 推進へ意欲

北陸銀とアロック・サンワ 契約

再生可能エネ事業に活用

北陸銀行(富山市)と総合建材商社「アロック・サンワ」(福井市)は十四日、持続可能な開発目標(SDGs)の実現や環境配慮型の事業に取り組む企業を対象にした「ポジティブ・インパクト・ファイナンス(PIF)」の契約を

北陸銀行(富山市)と総合建材商社「アロック・サンワ」(福井市)は十四日、持続可能な開発目標(SDGs)の実現や環境配慮型の事業に取り組む企業を対象にした「ポジティブ・インパクト・ファイナンス(PIF)」の契約を

北陸銀行(富山市)と総合建材商社「アロック・サンワ」(福井市)は十四日、持続可能な開発目標(SDGs)の実現や環境配慮型の事業に取り組む企業を対象にした「ポジティブ・インパクト・ファイナンス(PIF)」の契約を



記念の盾を手にSDGsの推進への意欲を示す石橋社長(右)と木田本部長(左) 福井市のアロック・サンワ本社で

があった。北銀の木田弘誠が執行役員福井地区事業部長、石橋智洋社長に盾を手渡し、「PIFを通じ、御社のSDGs活動の見え方を手伝えることを喜ばしく思う」と話した。

同日付で実行し、融資額は非公開。調達資金は、高性能な省エネルギー建築の普及促進や再生可能エネルギーの推進に充てる計画。

KPI(重要業績評価指標)に「(省エネを取り入れた住宅)ZEH・再エネ関連売上高を二〇二二年度比三倍以上に増加」を掲げた。

石橋社長は「エネルギー価格が高騰する昨今、我慢をする節電でなく、小さなエネルギーでも快適に暮らす生活を実現させたい」と、太陽光発電パネルや蓄電池の販売に向けて意欲をみせた。PIFのモニタリングを通じて一月に策定したSDGs宣言を実現し、信用力を向上させる考えも示した。(北原愛)

持続可能な住環境加速

アロック・サンワ(福井) 北陸銀が融資

県内初

建築資材専門商社のアロック・サンワ(本社福井市開発5丁目、石橋智洋社長)は、持続可能な社会づくりに向けた住環境改善を加速させる。北陸銀行(本店富山市)のサステナブルファイナンス商品の一つ「ポジティブ・インパクト・ファイナンス商品」の活用をきっかけに、

アロック・サンワは社会問題を解決するためのビジネスに力を入れている。昨年には米テスラの家庭用蓄電池の販売施工会社として、北陸3県に本社を置く企業として初めて認定された。今年1月にはSDGs(持続可能な開発目標)宣言を発表。太陽光パネルや高気密・高断熱資材の販売にも注力し「国際標準ともいえる、室温が18度を下回らない家」(石橋社長)の普及を目指す。



県内初の融資実行を記念した盾を受け取るアロック・サンワの石橋智洋社長(左) = 14日、福井市の同社

石橋社長は「SDGsの取り組みを実行する中で、甘い部分や目標が定かではなかった点もあった」とし、北陸銀が今年3月に取り扱いを始めたPIFに着目。

PIFは企業活動が社会にもたらす好影響を重視し、国際基準に準拠した手法で第三者が分析、継続してモニタリングすることを条件として融資を実行する。アロック・サンワは融資を受

けることで信用力向上につなげたい考え。

融資実行日の14日、同社でセレモニーが行われ、北陸銀の木田弘誠・執行役員福井地区事業本部長から石橋社長に記念の盾が手渡された。石橋社長は「エネルギー高騰の中、小さなエネルギーで快適に暮らせる家づくりを応援したい」と話している。融資額は非公表で償還期間5年。運転資金に充てる。(坂下享)